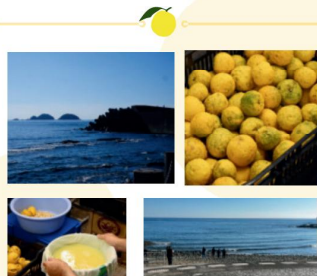


ANNUAL REPORT 2025

京都産業大学現代社会学部 プロジェクト演習 木原ゼミ
2025 アニュアルレポート



このアニュアルレポートは「みなみ阿波」若者創生協議会が実施する「南島地域づくりキャンパス事業」の助成を受けて制作しています。
※「みなみ阿波」若者創生協議会：南紀総合市民局及び熊野郡14町（阿礼町、那智町、牟婁郡、海城町、海城町）により構成され、「Dと」と「しごと」の好循環による持続可能な「まち」づくりを推進するため、みなみ阿波ファンの大衆、移住・定住の促進、サテライトオフィスの開設・定着支援に取り組む団体。

はじめに

京都産業大学・現代社会学部の木原ゼミでは、今年で8年目を迎えました。

今年度のテーマは「人と人のつながりを増やす」ことです。牟岐町を知ってくださる方や、応援してくださる方を増やすことを目的に、京都市内でマルシェへの出店を企画しました。マルシェへの出店を重ねる中で、牟岐町に興味を持ってくださる方や、応援してくださる方を増やすことができました。

また、秋学期からは8期生が加わり、新たな体制でゼミ主催のマルシェにも挑戦しました。活動の中では、計画通りに進まない場面もありましたが、その都度メンバー同士で話し合いを重ね、役割分担や進め方を見直しながら準備を進めました。その結果、協力し合いながらイベントを無事に成功させることができました。

この1年間の活動の軌跡を、ぜひご覧ください。

2025年度 アニュアルレポート編集委員

目次

年坂プロジェクト	6期生年坂町合宿	3
	ふるさと年坂親睦交流会	7
	徳島ゆかりの交流会in関西	8
	オープンキャンパス	9
	7期生年坂町春合宿	10
	7期生西陣Fes出店	15
	京都徳島県人会通常総会出店	17
	鴨川納涼2025出店	18
	西陣Fes夏祭出店	19
	こたつ会議出店	20
LaVitaプロジェクト	和編活Fes出店	21
	8期生初めの年坂合宿	22
	7期生イベント「むぎあわせMARCH」	23
	2025年春号 篠原三鈴さん	28
	2025年夏号 弓指利武さん	29
	2025年秋号 大賀知佳さん	30
	2025年冬号 清田佑太さん	31
ゼミ行事	6・7期生交流会	34
	オープンゼミ開催	35
	木原ゼミホームカミングデー2025	36
	8期生歓迎会	38
	第60回神山祭	39
	6期生卒業制作報告会	40
おわりに	編集後記	42

～牟岐プロジェクト～



牟岐プロジェクトとは？

「牟岐プロジェクト」とは、徳島県南部に位置する牟岐町をフィールドとして行っている、関係人口創出に関わる活動のことです。牟岐町での活動はもちろん、大学がある京都でも活動を行っています。牟岐町の特産品であるゆずの関連商品をマルシェで販売したり、牟岐と関わることで生まれたつながりを基に活動したり、毎年様々なテーマを掲げて活動しています。



これまでの活動例

- ・牟岐町での合宿
- ・牟岐の人々との交流や特産品「実生ゆず」の収穫などを実施
- ・牟岐の特産品を京都市内のマルシェで販売
- ・京都のカフェとコラボし、実生ゆずスイーツを企画
- ・京都と牟岐町の人々が交流するイベントの開催
- ・牟岐のJAが販売するお米のパッケージデザインの考案

など

1

2

6期生牟岐町合宿

2025/2/13-15

木原ゼミ6期生が2025年2月13日（木）から15日（土）、徳島県牟岐町で2泊3日の合宿を実施しました。



【木原ゼミと牟岐町の振り返りとこれからのためのミーティング】

1日目は昼頃に牟岐町に到着し、牟岐町役場、JA徳島県海部郡、NPO法人牟岐キャリアサポート、木原ゼミ6期生で、1年間の活動の振り返りと今後のゼミ活動について話し合いました。12月に京都で行ったイベントを振り返りながら、活動に込めてきた思いを共有し、改めて意義を感じました。

また、実生ゆずの生産量減少について、役場やJAの方から現状を伺いました。管理の難しさや生産量の不安定さが課題である一方、牟岐町の食文化を支える重要な存在でもあります。実生ゆずの魅力を発信し、牟岐町を応援する人を増やしていきたいと感じました。最後に、6期生から7期生へ学びや課題を引き継ぐことを確認しました。



【turn farmにて手作りピザ体験】

1日目の夜は、turn farmにて夕食をいただきました。牟岐キャリアサポートの大西さんが朝から仕込んでくださったおでんは味がよく染み渡り、とても美味しくいただきました。また、turn farmに新しく設置されたピザ窯を使い、食材を自由に盛り付けた手作りピザも楽しめました。食事の途中には、役場の方やゼミ生全員で誕生日のサプライズも行いました。ゆったりとした時間が流れる牟岐町で、交流を深めながら和やかなひとときを過ごしました。食後は、3日目の発表会に向けてリハーサルを行い、1年間の活動を振り返りました。



【出羽島散策】

2日目の午前中は、木原ゼミ6期生で2回目となる出羽島を訪れました。慣れない船旅に全員が大興奮する中、ワーキングホリデーで牟岐町に滞在している東生さん、牟岐町で活動しているアメリカ出身のジョンさんの案内で島内を散策しました。出羽島には近世から昭和にかけての伝統的な町並みが残っており、レトロな雰囲気を感ずることができました。その後、ジョンさんおすすめの「出羽島大池」を訪れ、国内唯一の自生地であるシラタマモを見学しました。険しい道のりでしたが、苦労してたどり着いた景色は美しく、大きな達成感を得ることができました。短時間ながら島の魅力を存分に体感でき、貴重な経験となりました。



【釣り体験】

昼食後、少年自然の家との協力のもと、堤防で釣り体験を行いました。今回はリアルのない延べ竿を使用しました。あまり釣れない時期と聞いていたが、実際には全員で20匹以上の魚を釣ることができました。牟岐町の海は透き通っており、堤防から泳ぐ魚の姿も確認できました。釣れた魚はフグが多かったものの、カサゴを釣り上げるゼミ生もいました。途中で猫が集まり、釣りよりも猫に夢中になる場面も見られました。釣りが初めてでゼミ生もいましたが、職員の方の指導のもと、和やかな雰囲気の中で体験を行うことができました。



【バーベキューと焚き火】

牟岐少年自然の家の隣にあるモラスコ牟岐では、管理を行っている木村さんとともにバーベキューを行いました。阿波尾崎など徳島県の名産を味わいました。海の近くで涼風は冷たかったものの、焚き火を囲んだ食事で会話が弾み、心身ともに温まる時間となりました。

また、満天の星空や赤く見える水平線から昇る月など、京都では見られない景色に出会い、自然の豊かさを実感しました。この時間を通して、牟岐町の雄大な自然の魅力を再認識し、貴重な経験となりました。



3

4

5

【灯籠に立ち寄りました】

3日目の午前には年岐探索でcoffee stand灯籠を訪れました。駅前の1階はコーヒーと物販で賑わい、常連の方と久しぶりにゆっくり話すごとができました。2階の和室や階段に懐かしさを感じ、今後のリノベーション計画から町の新たな動きを実感しました。コーヒーを通じた地域の温かさを感じました

【年岐町活動報告会】

午後からは、年岐町を拠点に活動を行っている学生団体の活動報告会に参加させていただきました。木原ゼミでは年岐町で「関係人口創出」をテーマに活動に取り組んでおり、私たちの代の「関係人口」の捉え方や目標、一年間の活動内容などを10分間ほどで報告しました。私たちは、「関係人口」には関係性の濃度においてグラデーションがあると考え、最初は広く浅く、徐々に深い関係人口の創出を目指す活動を行ってきた過程を説明しました。他の団体は、年岐町の特徴であるモリノカに焦点を当てた商品開発や、子供教育に焦点を当てた取り組み、出羽島での建築活動など、それぞれの大学の学部や団体の個性を活かした活動が紹介され、新鮮な意見を聞くことができました。年岐でフィールドワークを行う他団体の活動内容を詳しく知る機会には初めてだったので、多様な視点から年岐を学び直す貴重な機会になったと感じています。そして、活動報告をするにあたって一年を振り返る中で、「関係人口」や年岐町との関わり方について、改めて考えを深めるきっかけにもなりました。



この会館では、年岐町のさまざまな方と交流し、改めてこの町の魅力や課題について深く学ぶことができました。3日間、天候にも恵まれ、出羽島散策や釣り体験、バーベキューなど、普段の生活ではなかなかできない貴重な経験を積むことができました。今回の会館を通じて得た学びや気づき、次の7期生へとしっかりと引き継ぎ、これからも年岐町とつながり続けていきたいと思えます。そして、私たちが感じた年岐町の魅力を、より多くの人に伝え、さらに深い関係を築いていけるような活動を続けていきたいです。

6

ふるさと年岐親睦交流会

2025/2/22

2月22日(土)、「令和6年度ふるさと年岐親睦交流会」がシテプラザ大阪において開催されました。こちらの交流会には木原ゼミから角、品川、堀池の3名が代表として参加し、一年の活動報告を行いました。会場にはふるさと会の役員、年岐町役場、年岐キャリアサポート、年岐町長、年岐議員、徳島議員、年岐町の一般参加者、大阪公立大学など面識がある方から無いたく多くの方が参加されていました。



まず、年岐キャリアサポートの経緯に関する動画を視聴し、年岐町と学生の関わりについて学びました。その後、各団体によって取り組みの発表が行われ、木原ゼミは「年岐町の関係人口創出」をテーマに、6期生の捉え方や目標、マルシェ活動や12月のイベントについて発表しました。大阪公立大学松本ゼミ、JA正路さん、ゆのかんの花野さんの発表も聞き、理解を深めました。町長や議員の方々と交流し、特産品が当たると引きや阿波おどりの披露を通して、年岐町の温かさを感じました。今回の交流会を通じて、年岐町とのつながりの大切さを改めて感じ、今後もこのご縁を大切にしながら活動を続けていきたいと考えています。



7

徳島ゆかりの交流会in関西

2025/3/4

3月4日(火)、徳島県主催「徳島ゆかりの交流会in関西」がホテル日航大阪(大阪市)で開催されました。

昨年12月14日に木原ゼミが開催した「年岐DAY」に来てくださった徳島県西本郡の池内秀則さんから、ぜひ私たちの活動を紹介してほしいということで、今回の交流会にご招待いただき、1年間に取り組んできた活動について発表させていただきました。



交流会には、徳島県知事や県ゆかりの若手経営者、各県人会関係者、立地企業・産業界・大学関係者、学生など約250人が参加していました。徳島の魅力を伝える動画を視聴し、徳島への思いや今後についてのお話を伺いました。後半は、鳴門金時を使った料理やいちごのスイーツが並ぶ立派なパーティーに参加し、さまざまな方々と交流しました。活動に興味を持ってくださった方々から激励の言葉や名刺をいただき、これまでの活動の意義を実感しました。今後は後輩へつなぎ、より良い活動へ発展してほしいと感じました。

8

3月オープンキャンパス

2025/3/29



木原ゼミ7期生が3月29日(土)オープンキャンパスで年岐の実生ゆずを使ったスカッシュを提供しました。この活動はこれから京都産業大学を目指す高校生を対象に木原ゼミを知ってもらうことと興味を持ってもらうことを目的として行いました。ゼミのパンフレットと名刺を渡し、ゼミ活動をアピールすると共に、年岐町の特産品である「実生ゆず」の果汁を使用したゆずスカッシュを試飲として数量限定(約60杯)で提供しました。おかげさまで大盛況であつたという間に提供終了しました。その後もパンフレットと名刺を渡し、ゼミ活動のアピールをすることができ、好感触でした。これを機に木原ゼミや年岐町に興味を持ってくれると嬉しいです。

9

7期生年岐町春合宿

2025/5/10-11

5月10日と11日の2日間、7期生は徳島県年岐町へ春合宿に行きました。昨年11月以来、2度目の訪問となりましたが、両日とも天候に恵まれ、充実した活動を行うことができました。1日目は、JA女性部の方々に実生ゆずを使った年岐の伝統料理を振る舞っていただき、年岐のゆずの現状や今後について意見交換を行いました。また、年岐の実生ゆずをはじめ、徳島県木原や京都府水尾のゆず果汁を飲み比べ、それぞれの特徴を学びました。夕方からは内妻荘でバーベキューを行い、交流を深めました。2日目は、遊覧というアースタジオで年岐町で活動する若手の方々や交流した後、出羽島組と年岐町内組に分かれて散策しました。昼食には、あさひ食堂でつけ麺をいただきました。今回の合宿を通して、転換期を迎える年岐町を訪ねたことは、方針転換期にある木原ゼミの私たちにとって、大きな刺激となりました。



10

【ゆずに関するワークショップ】

年岐町に到着するとまず、JA女性部の皆さんが押し寿司を準備して待っていてくださいました。押し寿司をはじめ、サンジの南蛮漬は、ゆず酢のなます、ボウゼのお寿司といった実生ゆずを使った年岐の郷土食を味わうことが出来ました。今まで言葉でしか触れていなかった年岐の食文化を実際に体験できたことで、より身近に感じ実生ゆずに対する愛着が高まった気がします。また、JA女性部さんの活動なくして実生ゆずなくとも感じました。年岐の伝統である実生ゆずを継承して下さるのには粉れもなく女性部の皆さんで、私たちは木原ゼミとして協力したいと今後のゼミ活動の意を感じたように思いました。JA女性部さんと交流しながら美味しく頂いたあとは、ゆず果汁の飲み比べをしました。(写真見ながら) 愛媛県香取、徳島県年岐町の実生ゆず、徳島県那賀町の木通ゆず、高知県ゆず、県南ミックス、京都水尾のゆず、6種類を飲み比べました。色もそれぞれ違いがあり、ひとつひとつで同じ味のものはありませんでした。苦味が強いものもあれば甘味を感じるものもあり、また、感じ方は人それぞれだったので面白かったです。ゆずの特徴に合わせておすすめる用途が異なり多種多様などと感じました。最後に人気投票を行った際NO.1に選ばれたのはなんと京都水尾のゆずでした。意外な結果に年岐町の皆さんも他地域のゆずに強い関心を持たれていました。



11

【JA徳島県年岐事務所・年岐町役場の皆さんと意見交換会】

JAさん、役場の皆さんに7期生が計画した今後のゼミ方針や活動内容について発表するとともに、年岐町の現状についてお話を伺いました。昨年実生ゆずが過去最低の不作だったことやその背景に温暖化の影響、高齢化によるゆずの管理者の減少といったことがあつたことともわかりました。こういった生の声から「実生ゆず」の希少性や価値をより実感する時間となりました。今回の話し合いで、年岐町の方々の思いを直接聞くことで、自分たちが年岐町の文化と伝統の為に何ができるかを考え直すきっかけとなりました。



【地域の方たちとの交流会】

1日目の夜、年岐町の関係者を交えてバーベキューをしました。都会で生きていると物珍しいカツオのたたきを作ったり普段の生活であまり関わることの無い大人と喋ったりして交流を深めました。ゼミの同級生との仲もより深まったし先生や年岐町の方々の色々な話を聞いて貴重な体験となりました。さらにゼミ当日、誕生日の人もいてとても盛り上がりしました。



12

2日目

【年岐で活躍する若手の方々の意見交換会】

年岐の町を知るため、出羽島散策組と年岐町内散策組の2グループに分かれて行動しました。1人で読書をしながら過ごしたり、月に2回映画鑑賞をしたりして遊覧を経験した人と交流できる空間になっています。今回は落ち着いた空間で遊覧を経営されている下之坊さんと映画上映をされている八木さんのお話を伺うことができました。お二人とも大阪での仕事を辞め、自然と触れ合うことができ、自分を表現できる場所として年岐へ移住したこの事業を始めたそうです。年岐町は高齢化や人口減少などの課題がある中で、若い世代の方々が活躍できる場所があることを知り、私たち7期生も今後の年岐プロジェクトの活動に勇気を与えていただきました。



13

【地域の情報収集(出羽島散策、年岐町内散策など)】

年岐の町を知るため、出羽島散策組と年岐町内散策組の2グループに分かれて行動しました。出羽島は人口約30人の過疎化が進む島で、自然豊かで古風な街並みと、アート展などの取り組みが印象的でした。私たちは西陣Fesで行う貝殻フォトフレーム作りの材料として、貝殻やシーグラスを収集しました。一方、年岐町内散策組は遊覧の下之坊さんと共に港周辺を散策し、自然と人の温かさに触れました。昼食は年岐朝日食堂で地元の方おすすめの料理をいただき、交流を深める機会となりました。



【合宿振り返りミーティング】

合宿の最後には、年岐町役場の方やNPO法人年岐キャリアサポートの大西さん、木原ゼミ7期生で振り返りミーティングを行いました。実生ゆずの収穫量が過去最低であるという現状を踏まえ、京都でどのように年岐町の関係人口を増やしていくかについて意見交換しました。大西さんからは「環境と地域食」をテーマとした調査研究のお話を伺い、木原ゼミが人と人とのつながりを大切に記録してきた姿勢に共感していただき、年岐の地域食を共に記録する活動の提案をいただきました。今回の合宿を通して得た年岐町の方々の思いや考えをもとに、今年度の活動計画をブラッシュアップすることを確認しました。合宿の感想を語り合う中で、年岐の「人」との交流を通じて町を盛り上げたという熱意を強く感じ、有意義な時間となりました。



14

7期生、西陣Fesに出店しました！

2025/5/24



5月24日（土）、京都信用金庫西陣支店で開催された西陣Fes実行委員会主催の「西陣Fes」に出店しました。私たち木原ゼミ7期生にとっては、今回が2回目のマルシェ参加で、当日は雨の中にもかかわらず、たくさんの方が足を運んでくださいました。

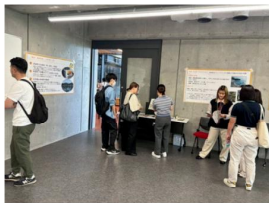


屋外では、徳島県牟岐町の特産である実生ゆずを使った商品の販売を行いました。ゆずスカッシュ、ゆずたれチヂミ、紫竹庵さんのコラボによるゆずチーズケーキを提供し、天候が心配される中でもチーズケーキは完売、ほかの商品も多くの方にお届けすることができました。屋内では、出羽島で集めた貝殻を使ったフォトフレーム作りのワークショップを開催し、親子連れの参加者と一緒に時間を過ごしました。販売やワークショップを通して活動や牟岐町の魅力を伝えるとともに、出店者や来場者との新たなつながりも生まれました。木原ゼミが大切にしている「人とのつながり」を実感できる貴重な機会となりました。

15

6月オープンキャンパスに参加しました！

2025/6/8



6月8日、京都産業大学のオープンキャンパスが開催され、現代社会学部説明会には多くの高校生が来場しました。私たちは教室をお借りし、現代社会学部の特徴的な学びであるプロジェクト演習の紹介とともに、木原ゼミの活動について説明を行いました。会場では、牟岐町のゆずジャムを使ったクラッカーを提供し、来場者に足を運んでいただけたことを嬉しく思います。前回は廊下ロビーでの実施でしたが、今回は教室を使用できたことで、ゼミの魅力をより詳しく伝えることができました。また、プロジェクト演習や学部・学科について、在学の方から直接説明できる貴重な機会となりました。ご参加いただいた高校生の方々が、自分らしい道路を選択されることを願うとともに、将来一緒に学べる日を楽しみにしています。

16

京都徳島県人会 通常総会

2025/07/13



からすま京都ホテルにて開催された京都徳島県人会 通常総会に、木原ゼミとして参加させていただきました！今回は、会場の一角をお借りして、私たちが徳島県牟岐町で行っている活動の紹介と、ゆずチーズケーキとぼんじゅれゆずの販売を行いました。会場ではゼミ生が阿波踊りに参加したり、徳島県にゆかりのある方々とお話したり、あたたかい雰囲気の中、楽しい時間を過ごしました。さらに、偶然にも牟岐町にご縁のある方と出会う場面も！まさかの出合いに驚きつつも、親しみを感ずりました。私たち7期生の中に徳島県出身者はいませんが、こうして牟岐町以外でも徳島県にゆかりのある方々とのつながりを持つことに、心から感謝しています。

17

鴨川納涼2025

2025/08/02



鴨川河川敷で開催された「鴨川納涼2025」に出店させていただきました。各都道府県の県人会の屋台が並ぶ中、私たちは徳島県人のブースにてゆずチーズケーキ、ぼんじゅれゆず、牟岐茶を販売させていただきました。さらに、徳島県人会のすだちスカッシュ、すだち割りなど、販売のお手伝いもさせていただきました。すだち割りやすだち割りなどが大忙しで売れていく中、私たちの商品も大々的な「すだち割り」で一瞬ブレイクしましたが、なんと！ゆずチーズケーキは完売、ぼんじゅれも牟岐茶も、ゼミ生の呼び込みや徳島県人会の方のおかげで大好評でした。休憩中には、他県の屋台グルメも堪能……。4時間があっという間！本気で楽しめました！今回のイベントは、これまでの出店と違って、偶然通りかかった方や観光客の外国の方など、ほんとうに幅広い層と交流できた貴重な機会でした。

18

西陣Fes夏祭り

2025/08/09



8/9(土)、京都信用金庫西陣支店で開催された「西陣Fes夏祭り」に出店させていただきました。私たちは、徳島県出羽島の海で拾った貝殻を使ったフォトフレーム作り体験を実施。今回はさらに、おはじきやビー玉などキラキラアイテムも追加。小さなお子さんを中心に大人気でした！約30人の方に参加いただき、大盛況！親子連れのお子さんだけでなく、大人の方も興味を持って声をかけてくださり、体験して下さったりととても嬉しかったです。フォトフレームは一人ひとり全く違ったデザインになり、見ていて本当に楽しい時間でした。

19

こたつ会議

2025/10/04



グランフロント大阪北館1Fナレッジプラザで開催された「こたつ会議-ローカルで光る宝を探せ！」に出店させていただきました。大阪でマルシェに出店するのは今回がはじめて！初めての規模感に少し緊張しました。今回は、『おっちゃんとおばちゃん』に掲載されているLavitaプロジェクトでお世話になっているユニオンエーさんから声をかけいただき、ユニオンエーさんのブースで一緒に参加させていただきました。当日はボンジゅれとゆず茶の販売を行いました！京都から8期生の子も来てくれたり、目の前で行われる「こたつ会議」を見たりと、刺激の多い一日でした。

20

和輪話フェス

2025/11/15



龍谷大学・舞鶴ゼミ主催の「和輪話フェス」に参加しました。京都市内の人口の約1割は学生。でも、他大学・地域・企業の方と関わる機会はまだ少ない……。そんな課題から生まれたのが「和輪話（わわら）」。和=和文を広める 輪=つながりを広げる 話=会話をし「思いを伝える」そんな思いがこめられたイベントでした。私たちは、ゆずみそあじ、ゆずチーズケーキ、ぼんじゅれゆず茶を販売しました。会場が東本願寺前というところもあり外国人の方も多く、慣れない英語でのご案内に挑戦。ゆずに興味を持ってきてくれたり、くださる方もいて嬉しかったです。京都産業大学のOBさんに偶然お会いしたり、お隣のブースは同じ京産大の「暇い夜行電行」だったりと、マルシェを通じて新しい「輪」がまた広がったのを実感しました。和輪話フェスのテーマは、「京都で和を感じながら、学生・地域・観光客・企業がつながる一日をつくること。まさにその通りの、あたたかい出会いにあふれる時間になりました。

21

8期生、初めての牟岐町合宿



11/15・11/16の2日間、8期生にとって初めての牟岐合宿に行きました。天候にも恵まれ、青空の下、初めての牟岐でたくさんの「つながり」が生まれる活動を行うことができました。

1日目は、実生ゆずについて牟岐の方からお話を聞いた後、実際にゆずの収穫・絞り体験をさせていただきました。夕食はTurn farmにてビザ窯で焼いた手作りピザを頂き、8期生の中がより一層深まる1日でした。2日目の朝はモリス川牟岐で美しい牟岐の海を一望しながら、牟岐の方々とのミーティングを行いました。ミーティング後は牟岐町から船に乗り、出羽島へ向かいました。綺麗な海に雲一つない青空が映る絶景の中、出羽島を散策しました。2日目の最後は、遊艇にてト之切さんからお話を聞かせていただきました。2日目は牟岐町をより深く知る一日となりました。8期生にとって初めての合宿、初めての牟岐町は、新しい出会いやつながりが生まれた2日間でした。8期生のゼミ活動はまだ始まったばかりですが、今回の合宿を通して出会った方々との「つながり」を大切に、これからのゼミ活動にも一層力を入れていこうと感じました。



22

7期生イベント「むぎあわせMARCHE」

2025/12/14



TAMARIBACAフェアつと+ページにて、木原ゼミ7期生の活動の集大成として「むぎあわせMARCHE」を開催しました。当日は、出店者さんの知り合いの方、以前から木原ゼミを応援してくださっている方、過去のマルシェで出会った方、先輩・後輩、牟岐の方、牟岐に関わりのある方、そして、たまたま通りかかった方まで。本当にさまざまな方が足を運んでくださいました。牟岐町の人や文化と、京都で出会える「つながり」の場として、JKA女性部さんに教わる押し寿司づくり体験や絞り器を借りて行ったゆず絞り体験も実施しました。押し寿司づくり体験は1部・2部ともに大盛況。会場中がゆずの香りに包まれる時間となりました。また会場には、「ゆずの木メッセージボード」を設置しました。「楽しかった」「おいしかった」「人があたたかかった」「牟岐町を身近に感じた」など、来場者一人ひとりの思いが、ゆずの葉となって残りました。このメッセージのひとひたとつながり、私たち7期生が1年かけてやってきたことの「答え」のように感じています。

23



7期生イベント「むぎあわせMARCHE」

Photosコレクション

24



年岐町の方の声

- ・このマルシェイベントを通じて、和菓子店など新たな年岐と京都とのつながり作っていただきました。
- ・本原ゼミが1年間作ってきた人とつながりが、年岐町が選んでくれたような感じがしています。
- ・マルシェで10数年ぶりに再会できた方もいて、本原ゼミが引力となって人とつながりを生み出していると思います。

7期生イベント「むぎあわせMARCHE」

25

～La vitaプロジェクト～



26



La vitaプロジェクトとは？

「キャリアは人との出会いによって切り開かれるもの」

本原ゼミでは、ゼミ生の将来の生き方や働き方の視野を広げるため、人との出会いをとても大切にしています。LaVitaプロジェクトでは、普段の学生生活で出会わないような年齢や職業、暮らし地域などが異なる方の価値観や生き方を取材し、記事にします。イタリア語で「生活」「人生」を意味する「La Vita」(ラ・ヴィータ)。

その名の通り、ゼミ活動の中で出会う人々の生活史、働き方、生き方をインタビューし、記事を執筆するプロジェクトです。インタビューはゼミ生自身が「この人の話を聞きたい」という人を決めて、取材に行きます。作成した記事は、「働く」(季刊誌)について考えるフリーマガジン『おっちゃんとおばちゃん』(季刊誌)に毎号掲載されます。

取材記事はこちらからご覧になれます。



27

La vita 記事執筆

2025年 春号



取材・執筆：深野愛梨、角悠太、山下陽勇馬、池本英里音、小田啓子

28

La vita 記事執筆

2025年 夏号



取材・執筆：北岡春奈、飯島愛奈、中村恵菜

29

La vita 記事執筆

2025年 秋号



取材・執筆：木村弥生、園近英嗣、上馬大知

30

La vita 記事執筆

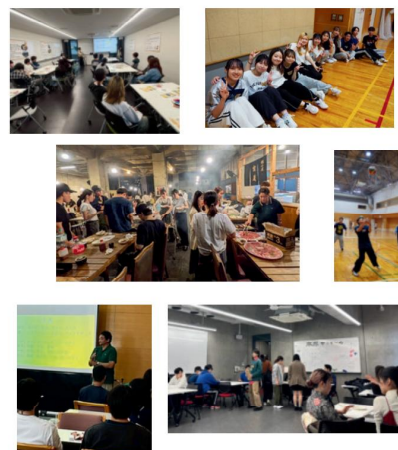
2025年 冬号



取材・執筆：中野真緒、植村晴恵、石田翔星

31

～ゼミ行事～



32

ゼミ行事とは？

木原ゼミでは、

「牟岐プロジェクト」「LaVitaプロジェクト」
以外にも日々さまざまな活動に取り組んでいます。

新ゼミ生の勧誘や歓迎会、
京産の文化祭である神山祭にも
毎年参加しています。
ここでは上記2つのプロジェクト以外の
ゼミ活動を紹介します。

33

6・7期生交流会

2025/3/6



3月6日に行われた6・7期生交流会では、6期生のスケジュールや活動方針を聞いて、私たち7期生のやるべきことを明確化するとともに、活動方針を具体的に考えるいっきかけになりました。各役割ごとで質問コーナーを行い、7期生がこれから活動していく上で、不安なことや気になることを6期生に質問し、ゼミ活動もいよいよ私たちの番だという意欲が高まりました。さらにレクリエーションの時間も設け、「ジェスチャーゲーム」と「なんでもバスケット」を行いました。想像以上の盛り上がりで楽しいひと時過ごすことができ、6期生と7期生の仲が深まりました。この機会を通して、私たち7期生が中心となって木原ゼミを動かすんだという自覚を持つことができました。

34

オープンゼミ開催

2025/5/29・6/5



5/29(木)・6/5(木)にオープンゼミを開催しました。参加者の皆さんが真剣にゼミ運営について向き合い、私たちも全力で応えたいと感じた2日間でした。第1希望だという声や、他のゼミと違ってという声を聞き、1年前の自分たちを思い出す場面もありました。オープンゼミを通して、木原ゼミの活動や想いを改めて確認し、自分たちの言葉で回答に伝えられたことは、私たちにとって貴重な経験となりました。また、「先輩が楽しかった」「ゼミの雰囲気良かった」といった感想も多く寄せられ、とても嬉しかったです。

35

木原ゼミホームカミングデー2025開催

2025/8/30



8月30日、木原ゼミの卒業生と現役生による交流会を開催しました。1～5期生8名とNPの法人牟岐町キャリアサポートの大西浩正さん、現役生を含む総勢28名が参加しました。
現役生による活動報告に続き、グループワークでは卒業生の趣味や思い出、就職活動の経験談などを共有しました。ゼミ生が卒業生の自己紹介カードを作成しながら、社会人としてのリアルな話を伺う貴重な機会となりました。
レクリエーションや質問コーナーを通じて各グループで会話が弾み、縦の繋がりが深まりました。昨年に続き2回目の開催となった今回も、卒業生・現役生ともに充実した時間を過ごし、今後の活動への意欲を高めることができました。

36

8期生歓迎会

2025/9/22

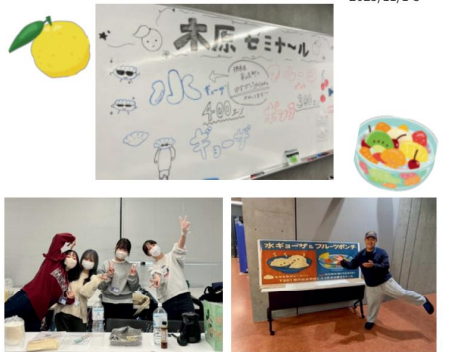


9/22(月)、8期生歓迎会として運動会&BBQを開催しました！
6・7期生にとっては初めて8期生と直接交流する場であり、8期生同士にとっても初めて顔を合わせる機会となりました。8期生同士も出会うばかりで緊張していましたが、さまざまな競技に挑戦する中で徐々に打ち解け、チームワークが生まれていっていると思います。ピンゴ大会などもあり運動が得意な人も苦手な人も楽しめる内容でみんなが笑顔で楽しんでいます。運動会終了後のBBQではゆっくりご飯を食べながら話ができただけで、6・7期生と8期生、また8期生同士の距離も一層縮まり思い出に残る楽しい一日となりました。

38

第60回神山祭

2025/11/1-3



11/1(土)～11/3(月)の3日間、京都産業大学で開催された神山祭に出店しました！徳島県牟岐町のゆずを使用したボンジュレをかけた水餃子とフルーツポンチを販売しました。準備から当日の運営まで、神山祭係を中心に7期生・8期生が協力し合いながら取り組みました。
当日は多くの来場者の方にお立ち寄りいただきました！特に牟岐産のボンジュレと水餃子の相性がよくボンジュレについて質問をいただく場面も多く見られ、好評である様子が感じられました。
期間中は多くの方々に立ち寄りいただき、笑顔と活気にあふれる3日間となりました。ご来場いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。

39

6期生卒業制作報告会

2026/1/8



1月8日、6期生の卒業制作発表会が行われました。
4期生の秋学期から制作をはじめ、当日は10名の4期生が2回生・3回生に向けて、制作物や制作の意図を紹介しながら、後輩へのメッセージも交えて楽しくプレゼンテーションを行って下さいました。作品の一つひとつからは、先輩方が大学生活で大切にできたことや個性がとても伝わって来ました。木原ゼミといえば、牟岐町プロジェクトやLaVitaプロジェクトなどの活動をイメージする人も多くいますが、その本来の目的は、プロジェクトの過程を通じて多様な人と関わり協働する中で人間性を高め、卒業後も自分の人生を主体的に生きていく力を養うことにあります。これまでチームでゼミ活動に取り組むことが多かった先輩たちは、卒業を目にした最後の時期に、改めて個人としての自分と向き合い、自分の好きなものや大切にしてきた価値観をもとに、4年間の大学生活を作品として表現していました。
表現方法は自由で、エッセイ、写真集、俳句、作曲など、毎年さまざまな形式の作品があり、見ていて私たちにとっても学びや刺激の多い発表会となりました。

40



41

おわりに ～編集後記～

アニユアルレポートを作成するにあたって1年間を振り返り、本当に色々な活動をしてきたのだと改めて感じました。自分の中で大きく成長できた1年でした。これまでの活動を振り返ると本当に大変なことが山盛りでしたが、やってこられたのは7期生メンバーのおかげだと思います。メンバーには感謝しております。

7期生 池本 美穂香

この1年間を振り返ると、何もかもが初めての経験で、新しいことに多く挑戦し、成長できた1年だったと感じています。22年イベント「たまあわわ」では、7期生主催ということもあり、大変な場面もありましたが、その分だけ活動を中心に楽しむことができました。でもしよも通って大変なところなる方がたくさんいることに、これからの感謝し続けたいと思います。

7期生 小田 啓子

アニユアルレポートの作成で改めてこの一年を振り返ってみると、たくさんのお出会いに恵まれた一年だったなと感じました。私たち7期生の活動を振り返られただけでなく、他学年の活動内容も詳しく知ることで楽しかったです。改めてのびる活動でつながりにもたくさんあったけれど、学んだことや先輩の方が大きかったです。7期生はまだこれからの成長が素晴らしいので、先輩方が続いてくださった縁を大切に活動していきます。

8期生 榎本 和佳

たまあわ、総務の仲間たちについて活動しているプロジェクト演習を見つけた時、私は感動を感じました。そこから新しい学びの場、そして仲間と人との繋がりが生まれ、成長を感じることに感謝を感じました。この成長があるのも色々な人との関係性があったからだと思います。メンバーのみんなも、ありがとう。熱心な活動に取り組んでくれた方たちのおかげでここまで成長できました。

7期生 木村陽佑

私たち8期生は、秋学期からゼミ活動を開始しました。私はこのアニユアルレポートの制作を通して、先輩方がこれまで積み重ねてくれた活動の積み重ね、聞いてこられた多くのつながりの大切さ、そしてその思いのたけを感じて感動しました。またまた先輩方から学びたいものを大切にしながら8期生らしく全力で活動していこうと思います。

8期生 河上 花梨



京都産業大学現代社会学部
プロジェクト演習 木原ゼミ
2026年2月



京都産業大学現代社会学部 プロジェクト演習 木原ゼミ
2025 アニユアルレポート



Web



Instagram